



◀ 展示された農家自慢の山うどを見る参加者



白神山うどの出来栄を競い合う

山うど部会

収穫最盛期を迎えた山うどの出来を競う、第19回山うど共進会が2月21日にプラザ都で開催され、工藤アキさん(二ツ井町・羽立)が最優秀賞の全農秋田県本部長賞に選ばれました。

共進会には2Lが21点、3Lが11点の計32点が出展され、会場には農家自慢の山うどがずらりと並びました。審査基準は「肌の色」、「石附やハカマがしっかりしているか」、「生長点の長さが揃っているか」などで、市場関係者が厳しく審査をし、消費者に選ばれる商品であるかどうかを重

視しています。

今年度の山うどの生育について担当者は「昨年と違い、株の休眠が十分に確保されており、長さの揃った高品質な山うどが出荷されている。今後は、日照時間が増えてくるので、ハウス内の温度管理を徹底し品質維持に努め、適期収穫を心がけてほしい」と話しました。

- 優秀賞：桜田和浩さん(二ツ井町・切石)
- 優秀賞：山崎金作さん(能代市・丑越)
- 奨励賞：藤田清樹さん(二ツ井町・種)

新しいJAの誕生に向けて

山本地区JA合併研究会

1月24日から管内4地区で地域座談会が開催されました。今回の座談会では、平成30年4月1日を目途とした山本地区2JAの合併について、協議内容を組合員の皆様に説明するとともに、意見をいただき今後の協議の参考にするために開きました。

のしる北支店管内の座談会には組合員約30人が参加。はじめに佐藤組合長がJAを取りまく環境に触れ「組合員の営農と生活の向上に向け、協議が行われている。JAは組合員の組織、みなさんの合意のもとに進んでいきます」とあいさつ。その後、各部の検討内容が説明されました。今後も、広報等を通じて情報を提供していきます。



▲今までの協議内容を報告しました



▲多くの生産者が訪れた講習会

安定した複合経営を目指す

JAあきた白神

JAあきた白神青果物連絡協議会と能代市農業技術センターが主催する、冬期野菜栽培講習会が2月14日と15日の2日間、能代山本広域交流センターで開かれました。冬場の農閑期を利用して行われるこの講習会では、農家の野菜栽培知識や技術アップを図り、安定した複合経営に繋げることを目的としています。

「ねぎの生育と土壌水分の関係について」の講習では、秋田県農業試験場の担当者が、かん水の頻度が生育に大きく影響することなどを説明しました。また、参加者からも様々な質問が出され、今後の栽培に向け活発な意見交換がされました。

